

平成 30 年 5 月 31 日 00380 号

編集者:佐藤 寿春

北見武道通信

北見市幸町 8 丁目 4-4(佐藤整骨院内)

NPO 法人北見市武道振興協会事務局発行

直通:090-5986-0839

代表:0157-22-2212 Fax:0157-23-0581

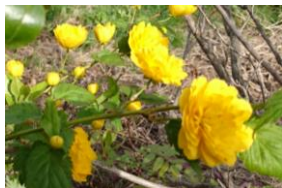
satou.toshiharu@navy.plala.or.jp

URL <http://www.kitamibudokan.org/>



ニュースレター【事務局情報】北見選抜選手選考会が開催されました！

5月20日(日)9時より、「第67回北海道少年剣道錬成大会兼第60回「赤胴」少年剣道錬成大会」北見選抜選手選考会が北見市武道館道で開催され、団体3チームと個人3名が選出されました。さらに、同日13時より[はまなす国体開催記念]「第29回北海道中学生剣道錬成大会」の選考会も開催され、男子2チーム、女子1チームが選出されました。



武道振興協会事務所の花シリーズ 事務所の周りに「ヤマブキの花」が咲きました。ヤマブキ(山吹)の花は、バラ科で北海道から九州まで生息し、北見市でも4月～5月にかけて咲き、毎年、きれいな山吹色の花を観ることができます。昔ながらの「大判小判の山吹色」とは、この花が語源になっています。

連載「武道宝鑑」第18弾 柔道秘訣 柔道教士七段 尾形源治 『柔道修行の心得』

「読書百遍意自ら通ず」の譬^{たとえ}の如く、柔道の技術も一つの業を十篇繰り返せば大体は熟達^{じゆくたつ}するものである。今日で解らなければ明日、明日明後日で解らなければ一年でも、十年でも嚙^{かじ}り付いて得心のいくまで研究すべきである。しかし徒らに時間を浪費して練習することは精力の不善用^{ふぜんよう}で最も戒心を要する。教師、先輩^{せんぱい}に対する時は、充分に投げられ絞められて、業の理論^{りろん}を実際に体験し、また打ち込み稽古^{けいこ}或いは捨稽古^{しへけいこ}といって、一つの業を呼吸もつかず幾度も幾度も掛けて業の切れ味をよくする事に努^{つとむ}べきである。同僚に対する時の稽古は本当に自分の業の切れ味を試す考えでやらなければならぬ。少しでも相手より優^あって居ると思えばそれだけ自分の業に自信を持つのであるから、益々^{えきえき}得意に帆を上げ努力^{どりよくけんきゆう}研究しなければならぬ。これに反して相手より劣^{あいて}っていると思えばいよいよ益々その足りないところを研究しなければならぬ。後輩^{こうはい}に対しては半指導の位置にいるものであるから、…つづく